



(第 25 号)

発行所 高松市新三二
高松高等学校内
香川県立高松高等学校玉翠会
責任者 多田野 久
印刷所 石田印刷(有)

平成 16 年度 玉翠会代議員会開催

平成十六年度玉翠会代議員会が、六月十九日（土）午後二時三十分より高松高校五階の玉翠会館ホールで開かれた。

丸谷教頭による開会の言葉のあと、多田野会長が挨拶に立たれて、「創立一一〇周年で行ったどの行事も成功裡に終了することができました。皆様方のご協力とご尽力のお陰であり、同窓会員の母校への想いの深さだと感謝し、お礼を申し上げます。また新たな世紀を刻んでおります母校に、いっその声援と支援を送り続けたい。」と述べられた。

続いて、溝渕校長より挨拶があった。「創立一一一年（トリプルワンの年にあたり、「志」の教育にも力を入れていきたいと思っている。大目標を持つ生徒が少なくなり、小目標で満足する生徒が増えつつある現状に鑑み、王陽明も『伝習録』で「学は志を立つるより先はなし」と言っているように、自ら高い目標を掲げて、それにチャレンジする志と挑戦力を

持った生徒を育てたいと思っています。そして、輝かしい歴史と伝統を継承しつつ新しい時代にふさわしい高高を創造していきたい。」と述べられた。

以下議事に移り、会則に従って多田野会長が議長に選出された。平成十五年度事業報告、高高創立一一〇周年記念事業特別会計収支決算報告に続いて、平成十五年度会計収支決算報告が行われ、拍手で承認された。

今年度は役員改選の年にあたり、丸谷教頭より、平井温子副会長、南繁文副会長の二名が退任し、理事・監事については、湯浅美恵子理事が今年五月に国東照美理事が昨年七月に亡くなられ、佐々木浩司理事が退任される旨が報告された。後任には森田紘一様、井本康裕様が推薦され、理事がいなかった学年から、植田實様、野網省平様、川東孝俊様が推薦されていることが報告された。会則に従い、まずこの新理事五名が承認され、平成十六年度理事による新理事会が別室にて開催された。選考委員会を設けて、会長・副会長を互選していただいた。別室で新理事会が行われている間、代議員会では事務局より「玉翠グローバルアカデミー」と先輩講演会、玉翠会報、会費納入について説明があった。その後、選考委員長を務められた丸富理事より選考結果が報告され、二名の副会長に替わって植田實理

問、代議員会では事務局より「玉翠グローバルアカデミー」と先輩講演会、玉翠会報、会費納入について説明があった。その後、選考委員長を務められた丸富理事より選考結果が報告され、二名の副会長に替わって植田實理

事、福家正理事が新副会長に、その他の会長・副会長は留任ということとで承認された。この後、八年間副会長を務められた南繁文副会長に多田野会長より花束の贈呈が行われ、旧役員の方と新役員の方にそれぞれご挨拶をいただいた。

次に、平成十六年度事業計画案及び会計収支予算案の審議が行われ、全て拍手で承認され、原案どおり可決した。最後に、岩部副会長の閉会の挨拶で、平成十六年度玉翠会代議員会を終了した。

母校のプラザにある螺旋階段上で、創立一一〇周年記念モノメントとして設置しました「独立自主の鐘」が毎朝・毎夕、夏の陽を浴びて鳴り響いております。会員の皆様方におかれましては、益々ご健康にてご活躍のこととお慶び申し上げます。玉翠会会長として七周年を迎えておりますが、これまで諸行事が滞りなく円滑に運営されておりますことは、ひとえに会員の皆様方のご理解とご支援の賜であります。厚くお礼申し上げます。

昨年の母校創立一一〇周年記念事業が、国内のみならず海外の会員の皆様方からも多大なご支援とご協力をいただき、成功裡に行われましたことを心からお礼申し上げます。祝賀会には一五〇〇名に及び会員の皆様にご出席いただき、母校と会員の皆様方、そして同窓生同士の絆が更に強く結ばれましたことを大変うれしく思っております。この母校創立一一〇周年記念事業



「百尺竿頭進一步」

玉翠会会長
多田野 久

を契機とし、三世紀に渡る玉翠会の同窓生の絆「管鮑の交わり」は既に強い横糸で結ばれていますが、それと同様、これからは、縦糸を如何に強化するかが大きな課題となります。世紀を超えた「交わり」の創生の方法を皆で考えましよう。

さて、ちょうど一〇〇〇年前の一〇〇四年に、北宋の道元がまとめた景德伝灯録の中に、「百尺竿頭進一步」という格言があります。これは、どんな優秀な成績を収めたとしても決して自慢や驕り高ぶることをせず、現状に甘んじることなく絶えず努力し、更なる成績を勝ち取らねばならないということですが、今の時代にこそ「至誠一貫」「雪持ち笹」の精神に照らして学び続け、挑戦し続ける姿勢を忘れないようにしたいと考えております。

最後に、会員の皆様方の益々のご活躍と、玉翠会にまた新たな歴史が刻まれますことを心より祈念し申し上げます。ご挨拶といたします。

玉翠会の皆様には平素より母校の教育活動に対して深いご理解と温かいご支援をいただき、厚くお礼申し上げます。特に昨年は創立一一〇周年記念モノメントとして、プラザ時計台の上に「独立自主の鐘」をご寄贈いただき、誠に有難うございました。

さて、高松高校は、これまで五十五年ごとに大きな改革を行い、その時代の变化に適切に対応して、常に香川の中等教育界をリードしてきました。明治二十六年に学校が創立され、昭和二十四年には新制高松高校として再出発をし、そして創立一一〇周年（トリプルワン）を迎えた今、高松高校は大きな教育改革のうねりの中で第三の開校期を迎えているといっても過言ではありません。時流に乗ることも大切ですが、むしろ今日のよう

に先行き不透明な時代には、原点を見失わないようにすることのほうが大切なのではないかと思っています。根がしっかりしていない樹木は、風が吹くたびに倒壊する危険があります。根がしっかりと固まれば、たとえどんな風が吹いても倒壊することはありません。玉翠会は、原点を見失わないようにすることのほうが大切なのではないかと思っています。根がしっかりと固まれば、たとえどんな風が吹いても倒壊することはありません。玉翠会

経営や教育は、植物を育てるのに似ていると言われます。本校でこの根の部分に当る一つの例として、かつて高松中学校には自疆舎という寄宿舎がありました。舎名の由来は『易経』の「君子自疆不息」に拠っているが、自ら進んで勉強しようとするその向学進取の精神は、高松高校になっても校歌に「向学の念揺るぎなく」と歌われ、その伝統が引き継がれています。この自疆精神の高揚という根っ子の部分を大切にしていきたいと思っています。

目には見えないが、これまで先輩達が培ってきた校風という確かな「風」を感じつつ、「ニュー高」づくりに向けて職員・生徒とともに今後とも努力していきたいと考えておりますので、玉翠会の皆様方の尚一層のご協力とご支援をお願い申し上げますとともに、玉翠会の今後益々のご発展と会員の皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。ご挨拶といたします。

人とキカイのことを考えている会社です



TADANO

幸せと感動を伝える創造企業

株式会社 タダノ

取締役相談役 多田野 久

〒761-0185 高松市新田町甲 3 4 番地 TEL 087(839)5555(代)

高松高校創立110周年記念事業特集



高高創立110周年

記念事業を終えて

創立110周年記念事業実行委員会

委員長 大西 大介

何か遠い昔の出来ごと
のように感じられる創立
110周年記念事業も僅
か数ヶ月前の出来事であつ
た事に気づき、慌しく流
れ動く世の中、もう少し
余韻に浸る時間を持ちた
く思う次第です。

準備期間を入れると二
年に渡る事業でしたが、
その間いろいろと議論を
重ね、高松高校、玉翠会
の英知と汗を集め企画し
たその総てが完璧に進み、
平成十五年九月六日の全
日空ホテルクレメントに
おける記念祝賀会で大ブ
レイクしてフィナーレを迎え、
多くの参加者を送り出し
たのですが、その瞬間は
何かが抜けて行く思い
を持ちました。同時に一
生懸命頑張ってきた
準備委員の方々、諸先生、
更には多くの参加者に「有
り難うございました」と
心の中で大きく頭を下げ
させていただきました。

「あー、さすが高松高校だ、
110年の伝統だ、多田
野会長率いる玉翠会だ」
との当時の思いは今でも
心に残っています。

宴の興奮は日々と共に
薄れて行くのは止むを得
ませんが、良き思い出は
昇華され、心に深く残り、

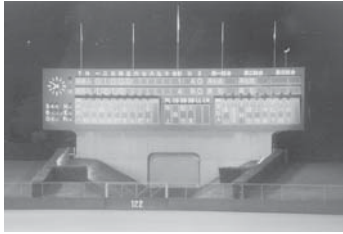
母校愛へ、上下を問わぬ
更なる友情へと形を変え
て行くことでしょう。玉
翠会館に行けば県女、高中、
高松の校舎模型や制服が
保存され、学び舎には「独
立自主の鐘」が響き、一
110周年のシンボルマ
ークがここに見られます。
記念誌や香川の早慶戦ビ
デオ、多くの写真、校歌
CDと記録も保存されま
した。責任者として自賛
するのも変なのですが立
派な式典であったと思ひ
ます。

正直のところ記念祝賀
会に何人が来てくれるだ
ろうかの心配は、徳永担
当副委員長の身体を蝕み、
当日は痛風の痛みを堪え
ての活躍でしたが、心配
が杞憂になり、予想以上
に会場を一杯にする事が
出来ました。これも県外
からの参加者、晩翠、高
中の愛校心の発露のお陰
と感謝申し上げます。

これからポスト110
周年として玉翠会は活動
して行くのですが、記念
事業活動を通し、気に掛
かることが2、3あります。
若年層の参加意欲の無さ、
地元在住者の掘り起こし
不足、代議員によるのでし
うが学年間の意欲のばら



得点を重ね盛り上がるベンチ



「香川の早慶戦」のスコアボード



約1500名で賑わう記念祝賀会



記念祝賀会の受付風景



シンボルマーク・ファンファーレの表彰



螺旋階段の上で鳴り響く「独立自主の鐘」



応援団OBの華麗なる演舞



記念祝賀会の多田野会長の挨拶



復元された懐かしい制服



110周年記念文化祭のオープニング・セレモニー

高松高校創立110周年記念事業特別会計 補正予算並びに収支決算書

「収入の部」 (平成14年4月1日～平成16年3月31日)

費 目	15年度 補正後予算額	14年度決算額 (14/4～15/3)	15年度決算額 (15/4～16/3)	合計決算額	差 額	摘 要
1 玉翠会会計より	8,500,000	5,000,000	3,500,000	8,500,000	0	
2 祝賀会会費	14,280,000		14,280,000	14,280,000	0	10,000円×1,428名
3 寄付金	2,090,000	1,200,000	890,000	2,090,000	0	来賓、玉翠会各支部、関西晩翠部会等
4 玉翠会員名簿	2,700,000		2,699,756	2,699,756	△244	売上・広告益金
5 記念誌	1,300,000		1,281,000	1,281,000	△19,000	1,000円×1,281冊
6 雑収入	500,000	53	499,535	499,588	△412	コンベンションビューロー補助金 記念誌、CD、エプロン、Tシャツ等売上等
合 計	29,370,000	6,200,053	23,150,291	29,350,344	△19,656	

「支出の部」

費 目	15年度 補正後予算額	14年度決算額 (14/4～15/3)	15年度決算額 (15/4～16/3)	合計決算額	差 額	摘 要
1 記念誌関係費	200,000	23,734	159,219	182,953	△17,047	作成、保存
2 在校生記念誌代	1,200,000	0	1,200,000	1,200,000	0	
3 文化祭関係費	5,200,000	1,940,150	3,247,433	5,187,583	△12,417	校舎模型、制服等作製、展示費等
4 祝賀会諸経費	17,500,000	0	17,382,060	17,382,060	△117,940	会場・会食、土産、祝儀等
5 記念モニュメント	2,660,000	0	2,653,745	2,653,745	△6,255	「独立自主の鐘」
6 香川の早慶戦	1,600,000	0	1,562,668	1,562,668	△37,332	球場使用料、バス代、ユニフォーム等
7 広報関係費	240,000	0	236,250	236,250	△3,750	新聞広告
8 横断幕他	260,000	176,400	73,500	249,900	△10,100	
9 会議費及びキックオフパーティー	100,000	47,691	32,766	80,457	△19,543	
10 次年度繰越金		4,012,078	△4,012,078	0	0	
11 剰余金	410,000		614,728	614,728	204,728	本部会計へ戻入
合 計	29,370,000	6,200,053	23,150,291	29,350,344	△19,656	

※当初予算と補正後予算の組替えは以下の通りです。

収入の部	当初予算額	補正後予算額	補正額
1 玉翠会会計より	8,500,000	8,500,000	
2 祝賀会会費	20,000,000	14,280,000	△5,720,000
3 寄付金	1,200,000	2,090,000	890,000
4 玉翠会員名簿		2,700,000	2,700,000
5 記念誌		1,300,000	1,300,000
6 雑収入		500,000	500,000
合 計	29,700,000	29,370,000	△330,000

支出の部	当初予算額	補正後予算額	補正額
1 記念誌関係費	400,000	200,000	△200,000
2 在校生記念誌代	1,200,000	1,200,000	
3 文化祭関係費	4,000,000	5,200,000	1,200,000
4 祝賀会諸経費	20,000,000	17,500,000	△2,500,000
5 記念モニュメント	2,500,000	2,660,000	160,000
6 香川の早慶戦	1,000,000	1,600,000	600,000
7 広報関係費	300,000	240,000	△60,000
8 横断幕他	200,000	260,000	60,000
9 会議費	100,000	100,000	
10 補正剰余金		410,000	410,000
合 計	29,700,000	29,370,000	△330,000

For The Next Decade 新たな 10 年に向けて

さて、関西玉翠会は昨年十周年を迎えました。それまでも玉翠会京阪神支部としての長い歴史があり、玉翠会会員の諸先



は「For The Next Decade 新たな10年に向けて」としました。今回の幹事は昭和四十七年卒で丁度五十歳になります我々が

第十回関西玉翠会総会は昨年十月二十五日(土) ホテルニューオオタニ大阪にて開催されました。十回目の節目に当たることより、総会テーマ

関西玉翠会

昨年は母校創立一〇周年にあたり、記念パーティーをはじめ記念事業がおこなわれました。遅ればせながら、関係者の皆様のご努力に敬意を表しますと共にお慶び申し上げます。

担当しました。総会には地元より真鍋香川県知事、増田高松市長、多田野玉翠会会長、母校より丸谷森岡教頭先生方にご参加

いただきました。ご多忙のなか遠路ご参加いただきましたことに心より御礼申し上げます。

総会には四十七年卒で我々の同窓生でもある藤原清澄君率いるジャストリオのミニコンサートや

一見、順風満帆に見えました関西玉翠会もいざ幹事になりましたといくつか問題があることに気づきました。どこの会でもそうでしょうが、幹事を引き受ける人が少なく

うどんやてんぷら、お酒やワインなども十分に堪能していただきました。これらを含め総会開催にあたり、多くの方々のご支援をいただいたことを心より御礼申し上げます。

幹事への負担が大きいと、若い人がなかなか集まってくれないことなどです。話は少々飛躍しますが、高生が母校愛を持ち結束を強めれば、おのずとこれからの卒業生の結束も高まると思いま

最後に今年の関西玉翠会総会ですが、昭和四十八年卒の有志が幹事を担

う、今後開かれておりました京阪神晩翠会の総会は、誠に残念ながら昨年の六月に行われましてのを最後に、今年より関西玉翠会総会と合流することになりましたのでご報告いたします。

最後にになりましたが、母校並びに玉翠会本部、各支部のますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。



感動の報告です。当日、当し、十月十日にホテルニューオオタニ大阪にて開催されます。これまで同様に皆様方の暖かいご支援ご指導よろしくお願ひ申し上げます。



岡山玉翠会総会

十月十九日
アークホテル岡山
岡山玉翠会は香川県立高松高校の同窓会で
す。岡山在住者で組織
しており、毎年秋に総
会を開催しており、今
年で二十五回になります。
母 校 からは溝渕校長先生、本部役員とともに真鍋武紀香川県知

事も参加され、にぎやかな会となりました。年に一度だけは周囲に気兼ねすることなく、讃岐弁での子供や孫の自慢はストレス解消になると大変に好評です。(八面に岡山玉翠会会長の辻孝夫氏の投稿が掲載されています。)

支部会だより



総会には、玉翠会本部の多田野久会長をはじめ各玉翠会支部の代表者の皆様、母校から溝渕利博校長先生をはじめ現役の先生方、私たちがお世話になった懐かしい恩師の先生方、真鍋武紀香川県知事、増田昌三高松市長等多数の来賓の皆様のご出席を賜りました。幹事

や風かき氷などの讃岐の味を用意し、ご来場の皆様に好評だったようです。総会のフィナーレを飾る校歌斉唱のときには、高生、私たちがお世話になった懐かしい恩師の先生方、真鍋武紀香川県知事、増田昌三高松市長等多数の来賓の皆様のご出席を賜りました。幹事

約八十名の出席者は真剣に耳を傾け、大変有意義な会となりました。最後にになりましたが、母校並びに玉翠会本部、各支部のますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。

さて、七号となった会報の紹介をしましょう。今回は高高一〇周年記念行事の特集としました。まず一〜二頁は、渡邊会長(昭和三十三年卒)の「高高一〇周年記念行事に参加して」と題する感動の報告です。当日、

さて、七号となった会報の紹介をしましょう。今回は高高一〇周年記念行事の特集としました。まず一〜二頁は、渡邊会長(昭和三十三年卒)の「高高一〇周年記念行事に参加して」と題する感動の報告です。当日、

「独立自主の鐘」除幕式、一〇年の歩み展、記念祝賀会スピーチとエールの交換、「香川の早慶戦」の五枚を掲載しました。

最後の六頁は徳島玉翠会会員名簿を載せました。会員名簿はなかなか正確なものにならず、会報を送っても宛先不明で戻ってきたり、転出している

のにまた届いたとお叱りを受けたりと、四苦八苦しております。よい管理方法はないでしょうか。なお、今号は三段組で編集しましたが、少しスマートになったかなと自画自賛しています。

東京玉翠会

さぬきマイブーム

自分の中にある讃岐を
ふりかえってみませんか

私たち東京玉翠会は、平成十五年七月十二日(土)に、昨年までのホテルから品川駅前のパシフィックホテル東京に会場を移し、第二十一回総会を開催いたしました。

同は恒例に従い、高卒業後二十五周年に入った昭和五十四年卒業生が担当いたしました。

岐の味を心ゆくまで味わい、母校と故郷を思い出す楽しいひとときを過ごされました。

東京玉翠会にはゴルフ、囲碁などの同好会もあり、同じ趣味を持つ卒業生が楽しい時間を共有しています。平成十六年三月二十五日(木)には、ホテルパシフィック東京で講演会を開催いたしました。

徳島玉翠会は、平成十五年度は総会を行わず、会報「徳島玉翠会だより」の発行のみ行いました。

これは、わずかな事務局員で毎年総会も行い会報も発行するのはなかなか大変だということ、窮余の策で決めたことでした。会員間が疎遠になりはしないかという不安はありますが、暫くこの体制でやってみようということでした。

三丁四頁には、岡山玉翠会総会(十月十九日)に出席した直原副会長(昭和三十年卒)による写真入りの報告を載せました。参加者七十有余名で三時間におよぶにぎやかな会だったそうです。

また、渡邊会長による佃喜一郎氏(昭和四十四卒・平成十五年四月二十七日逝去)への追悼文を載せました。五頁には十四年度の総会の写真と事務局だより(十四年度と十五年度の活動報告)を掲載しました。

徳島

会報「徳島玉翠会だより」

玉翠会

玉 翠 会 役 員

本部		（顧問） 大西 潤 甫 個人情報のため隠しています		（顧問） 岡 野 美代子	
（会長） 多田野 久		（副会長） 脇 和 子		（副会長） 岩 部 隆	
（副会長） 榎 田 實		（副会長） 福 家 正		支 部	
（東京玉翠会会長） 辻 義 文		（副会長） 藤 井 富 弘		（副会長） 藤 井 富 弘	
（副会長） 永 野 精 子		（副会長） 高 田 トシ子		（事務局） 大 西 昭一郎	
（事務局） 大 西 昭一郎		（事務局） 大 西 昭一郎		（事務局） 大 西 昭一郎	
（関西玉翠会会長） 藤 井 義 弘		（副会長） 大 野 垣		（副会長） 大 野 垣	
（副会長） 島 田 清 隆		（副会長） 亀 井 くみ子		（副会長） 亀 井 くみ子	
（副会長） 野 口 喜世子		（副会長） 野 口 喜世子		（副会長） 野 口 喜世子	
（岡山玉翠会会長） 辻 孝 夫		（副会長） 太 田 武 夫		（副会長） 太 田 武 夫	
（副会長） 河 野 一 郎		（副会長） 清 水 育 子		（副会長） 清 水 育 子	
（事務局） 多 田 譲 治		（事務局） 多 田 譲 治		（事務局） 多 田 譲 治	
（徳島玉翠会会長） 渡 辺 謙		（副会長） 太 田 房 雄		（副会長） 太 田 房 雄	
（副会長） 直 原 弘 子		（事務局） 佐 竹 勝 利		（事務局） 佐 竹 勝 利	

代 議 員 名 簿

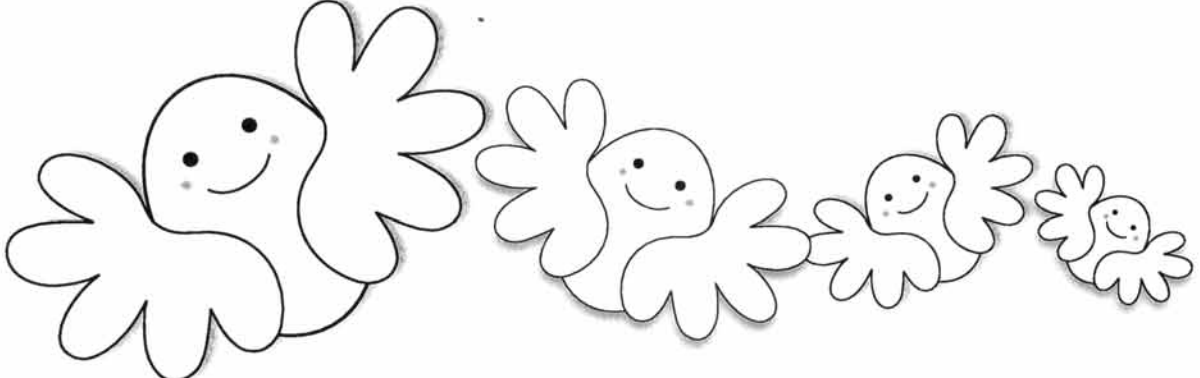
高中部会		入倉 満・千葉 孝正・ 作花 節子・竹内 昌子・ 山西 守・関谷 聡子・ 鶴川 舜一・植田 京子・ 熊 善一郎・中村 敬子・ 真鍋千賀子・吉田 晃・ 塩田 正章・松原 剛・ 秋山夫佐子・中野不子・ 岡崎 勝一・増田 勝彦・ 星川美智子・溝川 淳子・ 大林 義和・遠藤 忠知・ 森田 幸子・日野 弓槻・ 岡崎 進・上野 文夫・ 八代 紀子・横井 侑子・ 塚本 修・佐竹 睦子・ 木村大三郎・加藤 祥子・ 高浜 孝・安藤 晋一・ 笠井ミヤコ・谷本 朋子・ 千切多一郎・鎌田 基・ 岡田佳代子・飛田 久子・ 山内 康生・北岡 保之・ 三宅加代子・松尾久美子・ 佐藤 康弘・藤沢 晶・ 藤岡勢都子・朝国太啓子・ 大和田昭邦・尾崎 正澄・ 嶋 由利子・濱本貴美子・ 角田 朝則・真屋 正明・ 西尾 道子・古市 恵子・ 立野 省一・香西 幸夫・ 牟礼 明・松山千恵子・ 平井 大資・海部 泰夫・ 十河 喜代・川西 笑子・ 池田 紀治・上野 準一・ 堀家みどり・森 佐知子・ 小河 雄磨・井上 哲・ 重松佐栄子・糸瀬 敏恵・ 笹島 幹豊・榊原 賢治・ 穴吹 恵美・神内 幾代・ 鎌田順一郎・図子 泰・ 飯間 康代・長嶋 佳子・ 嶋村 昭・松山 哲也・ 池田 恵子・檀原万里子・ 岡 永二・土居 譲治・ 泉 暁美・織田 幹子・ 佐伯 典久・福田 安伸・ 久保 睦子・久松吾都子・ 修理 伸一・横山 忠則・ 大西 葉子・浜崎 泰子・
晩翠部会		入倉 満・千葉 孝正・ 作花 節子・竹内 昌子・ 山西 守・関谷 聡子・ 鶴川 舜一・植田 京子・ 熊 善一郎・中村 敬子・ 真鍋千賀子・吉田 晃・ 塩田 正章・松原 剛・ 秋山夫佐子・中野不子・ 岡崎 勝一・増田 勝彦・ 星川美智子・溝川 淳子・ 大林 義和・遠藤 忠知・ 森田 幸子・日野 弓槻・ 岡崎 進・上野 文夫・ 八代 紀子・横井 侑子・ 塚本 修・佐竹 睦子・ 木村大三郎・加藤 祥子・ 高浜 孝・安藤 晋一・ 笠井ミヤコ・谷本 朋子・ 千切多一郎・鎌田 基・ 岡田佳代子・飛田 久子・ 山内 康生・北岡 保之・ 三宅加代子・松尾久美子・ 佐藤 康弘・藤沢 晶・ 藤岡勢都子・朝国太啓子・ 大和田昭邦・尾崎 正澄・ 嶋 由利子・濱本貴美子・ 角田 朝則・真屋 正明・ 西尾 道子・古市 恵子・ 立野 省一・香西 幸夫・ 牟礼 明・松山千恵子・ 平井 大資・海部 泰夫・ 十河 喜代・川西 笑子・ 池田 紀治・上野 準一・ 堀家みどり・森 佐知子・ 小河 雄磨・井上 哲・ 重松佐栄子・糸瀬 敏恵・ 笹島 幹豊・榊原 賢治・ 穴吹 恵美・神内 幾代・ 鎌田順一郎・図子 泰・ 飯間 康代・長嶋 佳子・ 嶋村 昭・松山 哲也・ 池田 恵子・檀原万里子・ 岡 永二・土居 譲治・ 泉 暁美・織田 幹子・ 佐伯 典久・福田 安伸・ 久保 睦子・久松吾都子・ 修理 伸一・横山 忠則・ 大西 葉子・浜崎 泰子・
高高部会		入倉 満・千葉 孝正・ 作花 節子・竹内 昌子・ 山西 守・関谷 聡子・ 鶴川 舜一・植田 京子・ 熊 善一郎・中村 敬子・ 真鍋千賀子・吉田 晃・ 塩田 正章・松原 剛・ 秋山夫佐子・中野不子・ 岡崎 勝一・増田 勝彦・ 星川美智子・溝川 淳子・ 大林 義和・遠藤 忠知・ 森田 幸子・日野 弓槻・ 岡崎 進・上野 文夫・ 八代 紀子・横井 侑子・ 塚本 修・佐竹 睦子・ 木村大三郎・加藤 祥子・ 高浜 孝・安藤 晋一・ 笠井ミヤコ・谷本 朋子・ 千切多一郎・鎌田 基・ 岡田佳代子・飛田 久子・ 山内 康生・北岡 保之・ 三宅加代子・松尾久美子・ 佐藤 康弘・藤沢 晶・ 藤岡勢都子・朝国太啓子・ 大和田昭邦・尾崎 正澄・ 嶋 由利子・濱本貴美子・ 角田 朝則・真屋 正明・ 西尾 道子・古市 恵子・ 立野 省一・香西 幸夫・ 牟礼 明・松山千恵子・ 平井 大資・海部 泰夫・ 十河 喜代・川西 笑子・ 池田 紀治・上野 準一・ 堀家みどり・森 佐知子・ 小河 雄磨・井上 哲・ 重松佐栄子・糸瀬 敏恵・ 笹島 幹豊・榊原 賢治・ 穴吹 恵美・神内 幾代・ 鎌田順一郎・図子 泰・ 飯間 康代・長嶋 佳子・ 嶋村 昭・松山 哲也・ 池田 恵子・檀原万里子・ 岡 永二・土居 譲治・ 泉 暁美・織田 幹子・ 佐伯 典久・福田 安伸・ 久保 睦子・久松吾都子・ 修理 伸一・横山 忠則・ 大西 葉子・浜崎 泰子・
監事		入倉 満・千葉 孝正・ 作花 節子・竹内 昌子・ 山西 守・関谷 聡子・ 鶴川 舜一・植田 京子・ 熊 善一郎・中村 敬子・ 真鍋千賀子・吉田 晃・ 塩田 正章・松原 剛・ 秋山夫佐子・中野不子・ 岡崎 勝一・増田 勝彦・ 星川美智子・溝川 淳子・ 大林 義和・遠藤 忠知・ 森田 幸子・日野 弓槻・ 岡崎 進・上野 文夫・ 八代 紀子・横井 侑子・ 塚本 修・佐竹 睦子・ 木村大三郎・加藤 祥子・ 高浜 孝・安藤 晋一・ 笠井ミヤコ・谷本 朋子・ 千切多一郎・鎌田 基・ 岡田佳代子・飛田 久子・ 山内 康生・北岡 保之・ 三宅加代子・松尾久美子・ 佐藤 康弘・藤沢 晶・ 藤岡勢都子・朝国太啓子・ 大和田昭邦・尾崎 正澄・ 嶋 由利子・濱本貴美子・ 角田 朝則・真屋 正明・ 西尾 道子・古市 恵子・ 立野 省一・香西 幸夫・ 牟礼 明・松山千恵子・ 平井 大資・海部 泰夫・ 十河 喜代・川西 笑子・ 池田 紀治・上野 準一・ 堀家みどり・森 佐知子・ 小河 雄磨・井上 哲・ 重松佐栄子・糸瀬 敏恵・ 笹島 幹豊・榊原 賢治・ 穴吹 恵美・神内 幾代・ 鎌田順一郎・図子 泰・ 飯間 康代・長嶋 佳子・ 嶋村 昭・松山 哲也・ 池田 恵子・檀原万里子・ 岡 永二・土居 譲治・ 泉 暁美・織田 幹子・ 佐伯 典久・福田 安伸・ 久保 睦子・久松吾都子・ 修理 伸一・横山 忠則・ 大西 葉子・浜崎 泰子・



芦原 義重氏 逝去
享年一〇二歳
関西玉翠会名誉会長・
香川県名誉県民

関西経済の発展にご尽力された芦原義重氏が平成十五年七月十二日にご逝去されました。故郷を、そして母校をこよなく愛し、晩年は関西玉翠会の名誉会長として玉翠会の発展のために貢献されました。遺徳をしのび、心から哀悼の意を表します。

神内 正信・和田 知文・ 稲本賀世子・橋本 映美・ 三島 義之・新名 孝司・ 北条ひとみ・大石伊都子・ 吉田 守秀・岸田 光哉・ 吉川 正美・松下 節子・ 松延 健二・木下 雅子・ 藤野 勢津・斎藤 雅春・ 江見 寿建・松野 千珠・ 松岡 利佳・石濱 英暢・ 新谷 昭雄・高木 美穂・ 出射恵美子・野口 宏二・ 門脇 禎人・川井 幸・ 風呂 貴子・宮脇 森・ 藤谷良太郎・小野山千津・ 北島 桐子・木下 雅子・ 前野 勝彦・坂本 耕一・ 久米寿美子・高木 美香・ 下地 崇弘・吉田 智・ 大倉 恵美・前田恵美子・ 藤沢康一郎・小野 正博・ 宮田 弘恵・筒井 智子・ 西口 敦・篠原 隆司・ 桑島利江子・大門由美子・ 池田 康之・三好 啓介・ 木下 晶・三崎 恵奈・ 滝口 英城・富岡 貴美・ 井上菜々子・三好 享・ 千切耕一郎・前谷 季妙・ 世儀 賢一・井上 真人・ 西谷 暁子・岡田いずみ・ 西口 潤・神内 克知・ 小松 志保・井手下和洋・ 渡辺 光明・西口 園恵・ 川西 章弘・山上 佳樹・ 熊 宏美・大野 明美・	大橋 弘毅・山下 徹・ 串田 えみ・濱田 洋子・ 阪本 朋彦・香西 晴之・ 西岡佐知子・朝倉 理映・ 清水 洋平・赤崎 哲也・ 松本 順子・大賀 純子・ 松岡 敬三・鎌田 長明・ 川東 昌子・長嶋 真紀・ 長町 篤・高橋 優介・ 細川 直子・西村 明音・ 亀井 寿宏・渡辺 邦宏・ 糸瀬 ふみ・次田 紗己・ 横山 勇介・戸田 陽平・ 石原ゆかり・淀谷 光子・ 千葉 一孝・佐藤 傑・ 河本 和美・南原加代子・ 森谷 拓朗・淵田 慎也・ 長井 綾子・桑村 英里・ 柴田 真幸・尾路 紘一・ 橋倉今日子・永井 幸子・ 定通部会 頼富美徳子・佐々木充子・ 川口 光子・松崎 善忠・ 中村 章夫・藤沢 康良・ 横峰 豊・河端 悦治・ 野中 日勝・大森 正義・ 中山 敏夫・松本 昌弘・ 松本 修・大見 昌弘・ 若沢 昭一・田淵 薫・ 川東 孝俊・塩田 政則・ 市原 武・香西 悦子・ 和木智香子・長尾美智子・ 沖田フサエ・武田 芳美・ 上田 昇・青木 和也・ 住吉 栄司・玉木 勲・ 奥中 榮子・
--	---



ます!ます!RNC
<http://www.rnc.co.jp>

ただいま活躍中！

玉翠会の若手会員の中で、現在活躍中の方を紹介するコーナーです。今回は皆さんご存じの、NHK連続テレビ小説「天花」で主人公天花役を演じている藤澤恵麻さん（平成 12 年度卒）に質問をさせていただきました。



- Q 芸能界デビューのきっかけは何ですか？
- 大学 3 年になって自分の将来を考えるようになった頃、モデルのお仕事をしていたのですが、その時期に NHK のオーディションの話をもらいました。次の活動の場として演技の世界にも興味があったので挑戦しました。
- Q ドラマに出演してどのような感想を抱きましたか？
- 数分のシーンを撮影するのに、こんなにも準備や時間がかかると知ったこと。
- そして、時間だけではなく、見えないところですごく多くのスタッフが動いていることにも驚きを感じました。
- Q ドラマ収録に際してのエピソードがあれば教えてください。
- NHK のプロデューサーで高高 OB の方がいらっしゃるんですが、お会いして激励をいただきました。撮影中のエピソードで印象深かったのは…赤ちゃんが初めて一人で立つというシーンの時。立つことは出来てもまだ歩けなかったその赤ちゃんが撮影中に初めて歩きました!!
- Q 今後、芸能界で挑戦してみたいことは何ですか？
- 影響力がある仕事だと思うので、この先自分には何が出来るのかを探していきたいです。
- Q 高校時代の思い出はどのようなことですか？
- 部活でやっていたバドミントンの練習に友人たちと明け暮れていたこと。学校帰りに 3 ぶたでパフェを食べたこと。図書館で面白い本の情報交換をしたこと。アルカディアで合宿したこと。遅刻ギリギリの時間に最上階の教室まで階段を一気にかけ上がったこと。きりがいい位たくさんの思い出があります。
- Q 高松高校の先輩として後輩たちへのメッセージをお願いします。
- 友人を大切に。高校時代の友達は大人数になってからもお互いを励ましあったり昔の思い出話で笑い合えたり、いつまでもかけがえのない存在であり続けられると思います。そして、自分の可能性を信じて興味があることには挑戦してみてください。人生一度きり！やらずに後悔しないように。

多忙な撮影の合間を縫って、玉翠会報のために丁寧に質問に答えてくださった藤澤恵麻さん、本当にありがとうございました。質問とは別に、恩師や友人たちに対するお礼のメッセージも書き添えてくださっていました。そんな温かい人柄の藤澤さん、今後のさらなる活躍が実に楽しみです！

平成16年度 大学合格者数

1. 国・公・私立大別合格者数 (平成16年 4 月 20 日現在)

	学 校 名	人 数		学 校 名	人 数		学 校 名	人 数
国 立 大 学	北 大	5	国 立 大 学	大 阪 教 育 大	2	私 立 大 学	慶 應 大	43
	帯 広 畜 産 大	1		神 戸 大	15		中 央 大	23
	弘 前 大	1		奈 良 女 子 大	3		津 田 塾 大	9
	東 北 大	3		和 歌 山 大	1		東 京 女 大	4
	筑 波 大	4		鳥 取 大	2		東 京 薬 大	1
	埼 玉 大	1		島 根 大	1		東 京 理 大	21
	千 葉 大	3		岡 山 大	29		日 本 大	4
	東 大	10		広 島 大	19		法 政 大	7
	東京医科歯科大	1		山 口 大	1		明 治 大	13
	東 京 外 大	4		徳 島 大	6		立 教 大	2
	東 京 学 芸 大	4		香 川 大	21		早 稲 田 大	63
	東 京 農 工 大	1		愛 媛 大	5		京 都 女 大	9
	東 京 工 大	2		九 大	5		京 都 薬 大	3
	お 茶 の 水 大	5		宮 崎 大	1		同 志 社 大	44
	電 通 大	2		合 計	215		立 命 館 大	68
	一 橋 大	5		都 立 大	4	私 立 大 学	大 阪 医 大	1
	横 国 大	4		都 立 科 技 大	1		大 阪 薬 大	9
	金 沢 大	1		都 留 文 大	1		関 西 大	30
	信 州 大	2		岐 阜 薬 大	1		関 西 医 大	3
	名 大	5		京 都 府 立 大	2		近 畿 大	12
	名 工 大	1		京 都 府 立 医 大	2		関 西 学 院 大	26
	京 大	20		大 阪 市 大	1		神 戸 学 院 大	3
	京 都 教 育 大	1		大 阪 府 大	4		武 庫 川 女 大	5
	京 都 工 繊 大	1		大 岡 山 県 大	2		徳 島 文 理 大	8
	阪 大	15		合 計	18		福 岡 大	1
大 阪 外 大	大 阪 外 大	5		青 山 学 院 大	5		合 計(その他とも)	499

2. 国・公・私立大学学部別進学率（％）

学 部	文 外 語 社 会	法 政 治	経 済 商	理	工	農 林 水 産	医 歯	薬	生 活 科 学	教 育	体 育	そ の 他	合 計
	17	14	9	4	17	4	14	3	2	13	1	2	100

平成十六年度 人事異動

退職
事務部長 田河 強 尽誠学園本部
数学教諭(通) 緒方保雄 本校再任用
国語教諭(全) 福家智子
保健体育 吉田 守
音楽 大西葉子
時講(全) 大西葉子

転出

保健体育 勝瑞哲彦 高松商業全日制へ
事務部長補佐 山根裕美子 小豆島高校事務部長へ
家庭教諭(全) 松澤文子 石田高校へ
数学教諭(全) 山浦富美子 志度高校へ
数学教諭(全) 川田三郎 香川中央高校へ
数学教諭(全) 田井静明 瀬戸内海歴史民俗資料館へ
地歴教諭(全) 丸地欽也 教育センターへ
化学教諭(全) 浜野真由美 高松桜井高校へ
書道教諭(全) 石田茂登 高松商業高校へ
数学教諭(全) 田中 潤 高松商業高校へ
保健体育 山下由美 高松養護学校へ
家庭教諭(全) 中澤智哉 琴平高校へ
数学教諭(全) 岩本系穂 観音寺第一高校へ
国語教諭(全) 高木 静 坂出商業高校へ
養護指導講師(全) 畑本裕子 三木高校へ
実習指導講師(全) 藤本りつ 高松南高校へ
英語 育休講師(全) 藤本りつ 高松南高校へ

校内異動

数学教諭(定) 村川和也 全日制へ

転入・新任

事務部長 森本直樹 高松工芸高校より
国語教頭(通) 大森慎一 高松市少年育成センターより
国語教諭(通) 綾 博美 高松東高校より
保健体育 岩田昌史 丸亀高校より
書道教諭(全) 植松紀子 高松西高校より
数学教諭(全) 中西良典 飯山高校より
家庭教諭(全) 渡辺浩一郎 香川中央高校より
地歴教諭(全) 藤井真有美 高松商業高校より
保健体育 亀井好弘 大川体育館より
国語教諭(全) 白坂加代子 高松商業高校より
国語教諭(全) 白川直美 丸亀城西高校より
数学教諭(全) 今井 広 高松北高校より
地歴教諭(全) 松岡宏一 瀬戸内海歴史民俗資料館より
養護指導講師(全) 田中礼子 石田高校より
実習指導講師(全) 田中礼子 農業経営高校より
事務部長補佐 諏訪景子 津田高校より
家庭教諭(全) 越智陽子 琴平高校より
生物教諭(全) 佐々木史代 丸亀高校より
数学教諭(全) 水野伸吾 新規採用
地公 代替講師(通) 曾田みどり 香川中央高校より

国内復帰
数学教諭(全) 志原正敏 マレーシア派遣より

校友会の記録

第27回全国高等学校総合文化祭
器楽・管楽器部門 出場
オーケストラ部
将棋部門ベスト16
将棋部
木内 大輔・豊澤 悠希・木田直太郎
かるた部門 競技の部
百人一首同好会
三原 正寛・原 幸孝・苧坂 佳・
中山 詩野・藤堂 優子
放送委員会
第50回NHK杯全国高校放送コンテスト
アナウンス部門
升岡 知美
全国高校生美術祭
書道部
奨励賞 山下由利子・山本 彩

日本学書会
特選 山下由利子・山本 彩
将棋同好会
第16回全国高等学校将棋竜王戦
ベスト16 木田直太郎
百人一首同好会
第11回全国かるた競技増田大会
D級 1位 中山 詩野
出雲大社かるた競技大会
C級 3位 中山 詩野
平成 15 年度全国高等学校総合体育大会
ヨット部
三好 竜馬・中塚 俊輔
陸上競技部
入船 利彦
テニス部
松本 貴洋・藤本 規吾



いい出会い ふくらむ未来
百十四銀行

めざせ! いきいき百歳人ー 健康に長生きするために



岡山玉翠会会長 辻 孝夫
(昭和三十年卒)

近年、イラク問題など内外の厳しい状況に加え、鳥インフルエンザや SARS、BSE など、国際的なウイルス感染症が日常生活を直接おびやかすようになっていきました。玉翠会の皆様方におかれましてはお変わりございませんか、お伺い申し上げます。

昨年は、母校の一〇周年のお祝いを行い、その輝ける歴史の重みを感じましたが、重みに負けないよう私達もがんばっていますので、近況をご報告いたします。

岡山支部では、事務局長の入船健一(入船プラスチック会長、高昭昭和二十八年卒)氏が、その後も積極的に会員相互の親睦や会の発展に尽力くださり、地元の山陽新聞にも、

昨年十月十九日に行われた真鍋武紀県知事、溝淵利博校長、多田野久会長様御出席の岡山玉翠会総会の記事が掲載され、活動が報告されています。

さて、岡山玉翠会会長の私は、岡山大学医学部の第一内科教授を退官し、丸二年が経ちましたが、診療のあいまで執筆した「めざせ! いきいき百歳人ー健康に長生きするために」山陽新聞社出版部からこの三月下旬に出版することができました(写真)。

現在、日本人の平均寿命(〇歳の平均余命)は WHO(世界保健機関)の報告でも男性が七七・九歳、女性が八四・七歳と世界一位に位置づけられるほど長寿国になりました。しかし、一方、痴呆や寝たきりでなく、自分で自分のことができる健康寿命は男性が七一・

四歳、女性が七五・八歳であり、平均して六年から九年は痴呆や寝たきりで、何らかの他人の介助が必要な期間があり、これまた世界一位の負担を働き盛りの人たちにかける超高齢化が起きていることもわかってきました。

つまり、重症になってしまった患者さんをもも現役時代は、大学病院で莫大な医療費をかけて治療していましたが、病気になる前から治すより、医学的知識を毎日の生活習慣の中に取り込み痴呆予防や寝たきりになることを予防し、健康寿命を延ばすことが大切であることが痛感されるようになりました。

私の専門とした内科学の研究領域は広く、また病気の種類も消化器、肝臓、循環器、糖尿病、感染症などたくさんにわたっていました。たので、これらの知識や高齢の患者さんを実際に診察して得られた知恵に、私自身が実践していることも加えて、「病気の予防のために気をつけること」「老化防止」をわかりやすく一冊の本にまとめたわけです。

中高年になって増える高血圧や高脂血症、糖尿病、動脈硬化性疾患(狭心症、心筋梗塞、脳梗塞など)、さらにはがんも含めて「生活習慣病」を予防し、与えられた寿命をぎ

りぎりまで、いきいきと健康に過ごすために、日常生活の中ではどのようなことに気をつければよいかわかることです。

中高年の病気の特徴や健康づくりの知恵や秘訣、例えば寝る前と朝起きたときにはコップ一杯の水を飲み、血液をサラサラにする、杉田玄白の「養生七不可」や笑顔のすすめなど、さらには生活習慣の中で「死の四重奏」といわれる肥満、高脂血症、高血圧、糖尿病の防ぎ方、治療の原理などさし絵入りで理解しやすく解説しました。

母校の生徒達の「歓喜の歌」ハートフルコンサートなど元気に活動している様子が、新聞報道でもうかがわれましたが、さらに元気に希望と夢にみちた未来が生徒達にはあり、これらが実現できるよう、私達卒業生もがんばって知恵や知識を残しておきたいと、生きがいを感じながら元気に過ごしています。



四六版・216 頁
2 色刷り
発行 山陽新聞社出版部
(定価税込 1300 円)
TEL(086)233-8439
FAX(086)233-8499

先輩講演会と玉翠グローバルアカデミー

▼平成十四年度から始まった玉翠グローバルアカデミー(GGA)は、高校生が、学問や芸術・文化の各分野の第一線で活躍されている方々の考え方や生き方、各分野の入門的な話などにふれることによって視野を広げ、旺盛な知的好奇心を育て、将来の進路について考える契機とすることなどを目的としています。

▼平成十五年度も次のゲストをお迎えし、充実した内容で生徒たちに感動と希望を与えるGGAを開催することができました。これらは高知の知的

財産としてGGAビデオライブラリーに保存して後輩たちがいつでも利用できるようにしています。

七月二十六日(土) 植田 隆子 氏 (昭和四十六年卒) ICU社会科学研究所 所長・国際関係学科教授 東京大学ドイツ・ヨーロッパ研究室客員教授

九月二十日(土) 山地 憲治 氏 (昭和四十二年卒) 東京大学大学院新領域創成科学研究科・工学系 研究科教授

十月十一日(土) 朝原 雄三 氏 (昭和五十八年卒) 松竹株式会社監督、『釣りバカ日誌』や『サライマン専科』シリーズの監督

この時は、映画に詳しく、エッセイ「高松純情シネマ」などを書かれていた帰来雅基氏(昭和四十八年卒)との対談の形で実施しました。

十月二十一日(火) 多田野 久 氏 (昭和二十五年卒) 玉翠会会長 株式会社タダノ取締役相談役

十一月二十日(土) 吉本 健一 氏 (昭和四十二年卒) 大阪大学教授

十二月十一日(土) 竹内 義貞 氏 (昭和二十七年卒) 香川県立がん検診センター名誉所長

投稿募集のお知らせ

玉翠会報では次のようなコーナーを新しく設けたいと考えております。

I 「卒業写真」・・・卒業写真とともに懐かしい高校時代を振り返り、その思い出、エピソードなどを綴っていただくコーナーです。写真は集合写真に限らず、どのような写真でも結構です。世代を越えて、会員の皆様方が高松高校の歴史に触れられるような内容にできればと考えています。

II 「文芸欄」・・・会員の皆様方からお寄せいただいた作品を紹介させていただくコーナーです。具体的な内容については未定ですが、随筆、詩、短歌、俳句など、ジャンルは問いません。

また、前回設けました「あの先生は今・・・」のコーナーや今回の「ただいま活躍中!」に掲載する方のリンクエストもお待ちしております。その他お気づきの点などございましたらお聞かせいただけたらと思います。

宛先は「玉翠会事務局」まで、郵送又は FAX、電子メールでお願いいたします。

香川県立高松高等学校玉翠会事務局

〒760-0017 高松市番町 3 丁目 1 番 1 号
電話 (087) 831-7251(代) FAX (087) 831-0010
mail:gyokusui<takakou@mail.netwave.or.jp>

人と暮らしを潤す
「幸せな食創り」。



食べる喜び、食の楽しさを満喫し、健康な日々を過ごしていただけるよう、「幸せな食創り」を企業理念に活動続ける日本ハム。ハム・ソーセージをはじめ、いつも新鮮なおいしさがあふれる商品を通して、みなさまひとりひとりの幸せな食卓づくりをお手伝いしていきたくと考えております。

